平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.66

2011.2.7
発行：平和憲法・９条をまもる
岩手の会 事務局会議
連絡先 県生協連・県消団連
TEL019－684－2225
FAX019－684－2227

次世代に平和への思いを～「高校生平和の旅」

岩手高教組では、次世代に平和への思いをつなぐために「高校生平和の旅」を毎年実施しています。17 回目の今年は、沖縄の高校生との交流を初めて行うことができました。高校生 13 人と引率者 5 人が参加し、1 月 5 日から 7 日までの 2 泊 3 日の旅程で行いました。

1 日目は、首里城とその地下にある旧日本軍の司令部跡を見学し、地元首里高校の学生と交流をしました。岩手からは、「ライオンの涙」の紙芝居を発表し、岩手での戦争被害について紹介しました。翌日は、激戦となった島南部を見学、白梅の塔やひめゆりの塔、平和祈念館、糸数の壕（アブチラガマ）を見学し、壕では前日の白梅学徒隊の体験者の講話内容とダブらせながら歩きました。

3 日目は、普天間基地や嘉手納基地を見学し、住宅の地のど真ん中に横たわっている状況や離発着する戦闘機の爆音を聞きながら、沖縄のおかれている現状を目の当たりにしました。

回ってみると、多くの観光客が見学しているところと、私たちしか見学しておらずひっそりとしているところがあり、平和ガイドの「沖縄の戦争はいろいろな体験談があって、どれも真実。1 つの話が全てではなく、知られていない戦争もある。」との話が印象に残りました。また、犠牲になっても石碑に名前すら刻まれていない人もおり「目にみえないものを感じ取って欲しい」という話に、私たちが気づかずに見過ごしてしまっているところからも被害を感じ取ることの大切さを学びました。

琉球が日本に統合されて最初に行われたことは、師範学校をつくったことだとの説明がありました。教育により日本が軍国化へと進んでいったことを考えると、教育が与える影響は大きなものがあります。参加した生徒には、少しでも多くの友達や家族に今回の旅で学んだことを伝えて欲しいと思います。

（岩手高教組　書記次長　小野寺健）

参加生徒の感想より～

「平和のありがたさ」

私が想像していた沖縄。それは海や空が青くきれいで、とても住みやすいところだと思っていました。しかし、高校生オキナワの旅に参加して、想像とは少し違っているということがわかりました。

私たちはこの旅に参加したことをきっかけに、更に深く戦争について考え、知り、伝えることが大切だと思います。沖縄戦のことを伝え、みんなに知ってもらい、戦争について興味を持ち、世界中の戦争がなくなるようにしなくてはならないと思います。とても無意味な事なのに、戦った両国のたくさんの人々がなくなるのはとても悲しいことです。戦争での死者は二度と出してはいけないと強く思います。

この旅で得たものはすごく大切で大きいものです。戦争をなくすために今私は小さいことしかできませんが、この体験を期に、少しずつできる事をしていきたいです。

（抜粋）

署名活動、続けています！

釜石・大槌九条の会

太平洋戦争の開戦日に当たる 12 月 8 日、釜石・大槌九条の会はマイヤ・サンパルク店前で街頭署名を行いました。今年も母親連絡会の徴兵令状－赤紙配りと一緒に行い、9 名が参加し 82 筆の署名を集めました。

ある市民が「憲法９条？そんなのんきなことを言っている場合か！」と興奮気味に話しかけてきました。「朝鮮も中国もロシアも日本をなめている。これについてどう思うか？」

私たちは「あなたと同じように、こういう動きに怒っています。また、菅首相をはじめ政府がアメリカばかり気にして、きちんと外交をしていないのが重大だと思う。問題をあいまいにせず、憲法による外交で平和と安全を守るべきで、軍事力で抑えようとすれば戦争への道になる。」と訴えました。釜石艦砲射撃の話に及ぶと、自分の家でも一人亡くなっているといって、署名してくれました。

今日の情勢とマスコミの「抑止論」の中、こうした一つひとつの行動の大切さを実感しています。

街頭署名は、回結成以来 47 回のべ 346 名が参加し、3,457 筆となりました。

「９条の会」を草の根のように広げたいという思いを地方労連の 20 周年記念に訴え、10 名の方に賛同者になってもらい、会員も増えました。今後も地道に運動していきたいと思います。

（釜石・大槌九条の会　金崎安子）

コラム　良きアジアの一員となるために！ 響け！9条の会の声、国会と総理大臣に

12 月 17 日、政府は「防衛計画の大綱」を閣議決定しました。一読して驚いたことは、この「大綱」が「中国は…地域・国際社会の懸念事項となっている」（仮想敵国視）と明記し、「基盤的防衛力」から「動的防衛力」の整備を行うとしたことです。これでは周辺地域に軍事的緊張を高めるだけではないでしょうか。このとき中国は、朝鮮半島の平和と安定を保つため、関係国に対して平和外交交渉を展開していたといいます。あまりにも対照的ではないでしょうか。

わが国には何が必要か。マレーシア元首相マハティール・モハマド氏が数年前に日本のメディアに語ったことを今一度見てみましょう。

「（日本は）中国や韓国の急成長に恐れを感じて、ますます米国に近寄ろうとしている。…戦争放棄の誓いを忘れたかのように、米国のイラク攻撃まで支持した」「…中国が強大になるのは不可避だ。だが、中国に侵略の歴史はない。協力していける。中国経済が強くなれば、良い市場になるではないか」と。

今、９条の会は平和憲法・九条の「戦争の放棄と戦力及び交戦権の否認」を掲げて、「平和外交」を求める声を国会と総理大臣あてに強めるときだと思います。これが「良きアジアの一員」となる道ではないでしょうか。岩手の会では県民の過半数の 60 万筆を目標とする署名運動を強めていきたいと思います。（事務局）